

南加版

支那電報
ムーチュアル

八四一五

綺羅星のやうに
知事、市長、會頭、社長
野村中將歡迎午餐會

羅府知名の士を網羅した

野村中將歡迎午餐會

軍樂隊が放送する
一越後獅子や京の春

指揮棒を振ふ
夏目樂長

演奏曲は

西米利加曲サンキアナサバ
長唄(越後獅子)

圓舞曲(新精の夢)

舞曲喜フローアク

カシタ作

西米利加曲サンキアナサバ
長唄(越後獅子)

舞曲喜フローアク

カシタ作

見學日程

廿四

五兩日

十一日

十二日

十三日

十四日

十五日

十六日

十七日

十八日

十九日

二十日

廿一日

廿二日

廿三日

廿四日

廿五日

廿六日

廿七日

廿八日

廿九日

三十日

廿一日

廿二日

廿三日

廿四日

廿五日

廿六日

廿七日

廿八日

廿九日

三十日

廿一日

廿二日

廿三日

廿四日

廿五日

廿六日

廿七日

廿八日

廿九日

三十日

廿一日

廿二日

廿三日

廿四日

廿五日

廿六日

廿七日

廿八日

廿九日

三十日

廿一日

廿二日

廿三日

廿四日

廿五日

廿六日

廿七日

廿八日

廿九日

三十日

廿一日

廿二日

廿三日

廿四日

廿五日

廿六日

廿七日

廿八日

廿九日

三十日

廿一日

廿二日

廿三日

廿四日

廿五日

廿六日

廿七日

廿八日

廿九日

三十日

廿一日

廿二日

廿三日

廿四日

廿五日

廿六日

廿七日

廿八日

廿九日

三十日

廿一日

廿二日

廿三日

廿四日

廿五日

廿六日

廿七日

廿八日

廿九日

三十日

廿一日

廿二日

廿三日

廿四日

廿五日

廿六日

廿七日

廿八日

廿九日

三十日

廿一日

廿二日

廿三日

廿四日

廿五日

廿六日

廿七日

廿八日

廿九日

三十日

廿一日

廿二日

廿三日

廿四日

廿五日

廿六日

廿七日

廿八日

廿九日

七十五年を経た

初年は桑港で開かれ翌年
は櫻府で次は散市・須市

フエマーの歴史も一郡からだす種類が二百廿二種の平均であるさうだ

大舉出桑

本十八日午前六時櫻付駿の工
ビ一線に當市のボーリスカウフ
第四小隊をはじめとして多數

徳府在仕の同胞は練習監督拜のため出来ました。他に自動車出乗せる人もおほかつた

佛教常議員會の學務委員會の決議せた事項の數々

一 櫻府佛教會の常議會並びに
務委員會では去十六日會合を
し左の報告及び決議をした
一、櫻幼稚園より佛教會の付屬

業となれること

一九月一日二日加州共進
儀中に北加開教使及信徒懇
會開催の事

上近日中 決のこと

子（十三歳）の葬儀は昨十七日
十二時より同地方河下ホール
いこなまる會葬三百名の盛

赤松利一氏司命し友人三木造、河下和歌山縣人會聯合比利、河下日會吉原滋、南美以
赤松三郎諸代表の弔辭およ

●寄附 市内藤江金藏氏より
谷井牧師の説教あり 沖田貞
氏遺族に代り謝辭を述べ

弗を京谷夫人より故井伊トミ
悼記念として十弗の櫻府佛教
に寄附

二一三八一八十七日

謝電

●邸宅購入 市内濱中浅吉氏女きぬ子娘は今同エフ街五五番の立派邸宅(逸見此住宅)

となり)を購入し近日一家族で
転(うつ)ひよし

自動車保険に加入せよ
通取りしまり法には、自動車の
クシメントにより損害賠償を受
け方より請求される場合、

裁判所の命令する損害賠償金を支拂ひ且保険金を提供するに及ばざればライセンスを没収せし

る、規定あるにより寧ろ最初より保険加入しおくが安全なを坂本節吾氏は語つてゐる

144

日本農業新聞

第七號 八月十七日發行

周刊日本

夏の涼味

河村幽川

（一）
朝日新聞
八月一日

アイルトンの夏は緑の國じあ
水の星であら涼風の宿じあ
君はその緑と水を涼風と
の合作になる夏を愛する

水都の夏は特にすゞしく美し
い、この感情を通じて私はテク
ラメント河下アイルトンの夏を
愛味する

シラ山頂の雪が滴一滴と
さざれ、岩壁を下り、溪流をな
がれて、滝壺の島々をうるほ
す頃、海岸の樹々はその清新な
涼風爽々として訪れるこ
ろの涼のふところに抱かれて清い
河口に釣りをたる涼味はアメ
リカの持つ唯一の夏の快味で

▲

スカトント市は餘りにも涼

味の缺乏に泣いてゐる街である

河流ます（北曲）、支流又支流

島々の水網の美觀を呈する

それがライチ、ピスターに到

ば運河の支流合流して

それが元から同伴した八郎君は今

六七年の間に、額、幾へるか

がつて頭髪に白きをもへた干

人を反對して全国は躍つとて

福士と私、だらとは親戚もお

よばぬ間柄にある。見ね、と

夫婦と私、だらとは親戚もお

よばぬ間柄にある。見ね、と

夫婦と私、だらとは親戚もお

よばぬ間柄ある。見ね、と

夫婦と私、だらとは親戚もお

よばぬ間柄ある。見ね、と